

ワークショップ4 司会のことば

次世代につなぐ献血推進

阿久津美百生(栃木県赤十字血液センター)

井上慎吾(日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター)

現在、献血推進に係る中期目標「献血推進2020」において、献血者の増加に取り組むために、国・地方公共団体・各血液センター等にてさまざまな取り組みが行われている。今回は次世代に繋がる献血推進について、それぞれの立場から発表していただいた。

(菅田雅之さま)

献血協力を通じて見えたこと—献血対象の特性や変化に応じた活動を—

アサヒ飲料株式会社 菅田雅之さまです。

菅田さまは、現在アサヒ飲料株式会社営業本部の顧問をされています。

平成27年に自衛隊をご定年後、営業マンとなられて血液センターの職員と出会い、365日継続される献血活動を見て、何か協力できることはないかと、献血協力を通じて見えたことを述べていただきました。

(西山昇太さま)

全国で226団体5,251名の学生が毎年同世代への献血に呼びかけていただいている。今年度も学生による献血セミナー実施に向けた取り組みを紹介いただきました。

(中川國利所長)

中川所長は、間診医師・血液センター所長のお立場から「献血リピーターの増加にむけた取り組み」について常日頃より取り組まれている詳細かつ躍動的なお話をいただきました。

(小島参事)

平成30年10月29日から全国導入の「献血推進・予約システムの取り組み」について概要説明があり

ました。

献血者側の利便性向上により、予約献血の推進と献血者サービスに至る複数回献血を上げる取り組みを全血液センターの職員が適正に活用することが極めて重要です。

(瀧川次長)

平成30年度、血液事業本部では本部長の下、各種委員会が改編、献血推進部門においては、献血者対応部会が設置され、その下部に献血者確保戦略委員会が設置されました。その取り組みと今後の展開についてお話いただきました。

さて、平成29年度は、全国の10代献血者が増加に転じました。

次世代につなぐ献血推進については、国・地方公共団体・献血推進団体・血液センター・血液事業本部が連携し、さまざまな取り組みが行われています。

将来の献血基盤の確立には、高校生・大学生等の若年層献血の推進が極めて重要であると考えます。

高校献血を奨励している県は引き続きお願いをしていただき、高校献血が推進できない県においては、献血セミナー等の啓発はもとより、献血行動に繋げる推進を行い、県内の献血ルームへの誘導をより一層図る必要があります。

次世代へつなぐ献血、若年層の啓発と推進が、今後も推進されるよう、毎年の血液事業学会に、多くの血液センターから取り組み事例の発表が寄せられています。

全国の血液センター間でこれらの取り組みの共有化がさらに図されることを期待します。

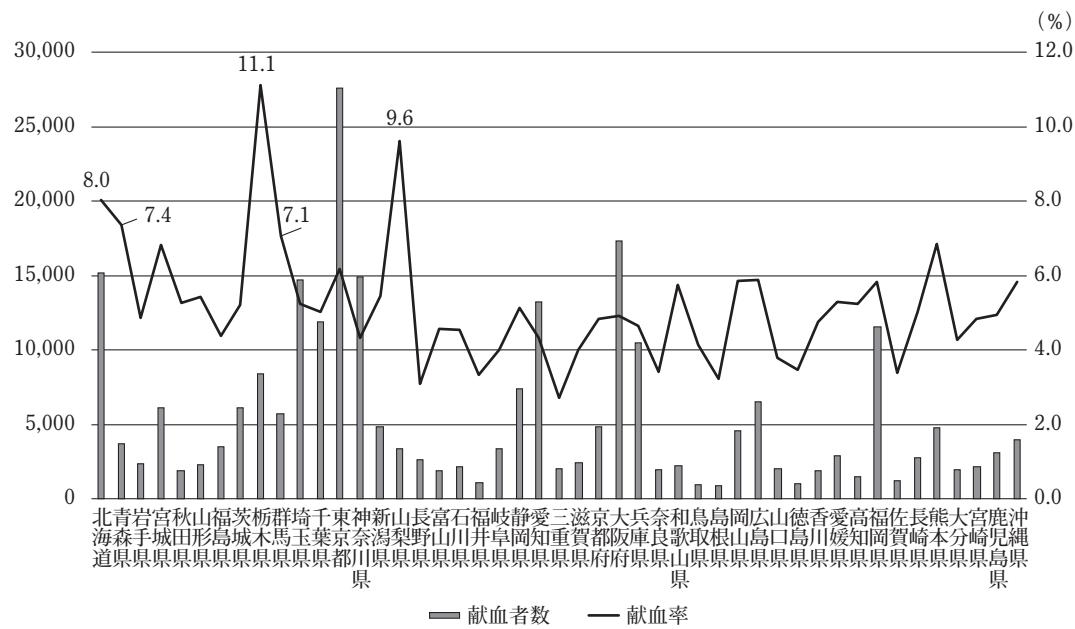


図1 全国平成29年度10代献血者数・献血率